

燐光群『拝啓天皇陛下様 前略総理大臣殿』

作・演出○坂手洋二

この作品は、棟田博氏の『拝啓天皇陛下様』等の著書から着想を得て、部分的に引用させていただいています。

11月13日(金)～22日(日) 座・高円寺
11月24日(火)・25日(水) 愛知県芸術劇場小ホール
11月27日(金)～29日(日) 伊丹市立演劇ホール AI・HALL
12月1日(火) 岡山市立市民文化ホール

私ども燐光群は、今年3月に『安らかな眠りを、あなたに YASUKUNI』、7月に『天神さまのほそみち』と上演を続けてまいりました。コロナ禍の下、劇場に足をお運びいただき、また、活動を応援していただき、心より感謝申し上げます。

この秋には、坂手洋二の書き下ろし・演出『拝啓天皇陛下様 前略総理大臣殿』を上演いたします。11月13日(金)に座・高円寺(東京)で幕をあげ、愛知県芸術劇場(名古屋)、AI・HALL(伊丹)、岡山市立市民文化ホールでのツアーも行います。

『拝啓天皇陛下様』は、戦時下の兵士・庶民を巧みに描いた棟田博の小説。1963年松竹により野村芳太郎監督・渥美清主演で映画化、同年すぐに続編が作られる程の人気を博し「国民的喜劇」として成功を収めました。同じ岡山出身で棟田博と遠縁にあたる坂手洋二は、永くこの小説の劇化を暖めており、令和の天皇代替わりを受け、この著書等から得た着想をもとに、部分的に引用しつつ、現在に繋がる書き下ろし作品として発表します。戦争の語り部である方々が亡くなりつつあり、第二次世界大戦の記憶も薄まる今、記憶の風化を防ぎ、歴史と世界のあり方を見直します。グローバルゼーションの広がりから取り残され、内向きになりつつあるこの国の現実を直視し、未来を拓く勇気を描く新作を、演劇ならではの手法でお届けします。

< 『拝啓天皇陛下様』の物語 >

昭和6年、岡山歩兵第10連隊に入隊した棟本博は兵役義務により同じ中隊に配属された山田正助と出会う。正助は漢字がほとんど読めずカタカナしか書けない、粗野だが純朴な男である。新兵は厳しいシゴキを受けるが、正助は不況下でも三度の飯が食べ風呂にまで入れる軍隊はまるで天国だと言う。ある「天覧大演習」で正助は天皇を見かけ感激し、親しみを抱く。一度は満期除隊した彼は、昭和12年、支那事変に伴う招集により再び兵役につく。「南京陥落」を知り、仲間の兵たちは「これで戦争が終わる」と喜ぶが、帰るところがなく軍隊が天国だと思っている正助は、なんとか自分だけはこのまま軍隊に残してもらおうと「ハイケイ天ノウヘイカサマ……」と手紙を書き始める……。

< そして、現在 >

正助が、軍隊とは違った「宮仕え」をする官僚である「私」の前に現れる。「分隊長、お久しぶりです」と言う彼は、「私」を作中人物と間違えているのかもしれない。敗戦を経て天皇が「象徴」に定められ、新たな元号が重ねられていることに、正助は驚愕する。昔は天皇陛下様、今は総理大臣殿が、この世界をまとめているのだと、正助は思う。そして、現在の時空間で、「私」と正助は、さまざまな事件に巻き込まれてゆく。

お誘い合わせの上、ぜひご来場くださいますようお願い申し上げます。

燐光群

(有)グッドフェローズ <http://rinkogun.com>

03-3426-6294 〒154-0022 世田谷区梅丘1-24-14 711梅丘202